

令和7年度 授業改善推進プラン（数学）

1 学校全体の取組

●研究テーマ 学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～
●研究仮説 心理的安全性の視点に基づいた学級経営・集団の育成を図り、それを基にした学び合い・教え合いの活動を取り入れた 授業を行うことで、生徒の対話的な学びが充実し、新たな視点・価値観を見出すことができるようになる。
●協調学習について 研究テーマの実現を目指し、その仕掛けとして「協調学習」を推進しています。 協調学習：一人ひとりの生徒が自らの頭で考え、仲間と考えを比較吟味し、より適切な答えをつかっていく学習スタイル。

★1年 大久保 公雅

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
単	対称な図形	71.7%	69.0%
小	重さをもとにかさを求める	38.4%	15.3%
小	中央値を計算する	54.8%	48.2%
小	対称の軸の本数を求める	61.6%	54.9%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
領	数と計算	66.7%	77.8%
領	図形	55.6%	66.7%
小	分数の計算	62.5%	75.0%
小	数の大小	34.2%	50.1%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

図形の特徴やデータの整理・分析に基づいて導出する力は全国を上回っており、特に、身近な数量的に捉える力は強みである。
一方で課題としては、基礎的な知識（特に数と計算）においては全国を下回る結果となっている。特に、分数の計算や数の大小が著しく低く、計算過程で躓きをもっている可能性が高いことが得られた。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1) ドリル形式による習熟を図る。
- (2) (1)を基にした、基礎的内容を活用した協調学習の推進を図る。
 - ① エキスパート活動に必ず入れる
 - ② ジグソーの際に、「全員ができる」ことに留意する。
 - ③ 既習事項を生かすことを生徒が意識できるような学習課題の設定を行う。

★2年 志村 聡

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
	データの活用	53.5%	51.5%
	資料の最頻値と中央値を求める	60.5%	56.4%
	円柱の表面積を求める	41.9%	33.2%
	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	80.0%	78.8%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
	数と式	59.7%	65.4%
	関数	45.6%	52.6%
	正しい文字式を選ぶ	70.9%	80.6%
	比例の関係でyの値からxの値を求める	55.8%	66.9%
	1つの問題について、これまでに習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があることに気づくことがある	55.3%	67.7%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

データの活用分野では理解を深め、全国平均を上回ることができた。また図形の分野でも、全国との平均の差は、昨年度よりも小さくなった。しかし、数と式の分野と関数の分野が弱く、全国平均を下回ってしまった。意識調査から、これまでに習ったことを活用していくという気持ちはあるが、1つの問題にもいろいろな解き方があるということに気づいていない生徒の割合が多い。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1) 基本的な計算問題に繰り返し取り組ませる。
- (2) 1つの問題にもいろいろな解き方があるということを協調学習（ジグソー、エキスパート活動）を通して気づかせるように指導していく。

★3年 岩城 博之

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
小	二等辺三角形の性質を利用して角度を求める	70.5%	60.3%
小	正しい1次関数のグラフを選ぶ	48.7%	40.5%
領	図形	79.5%	72.9%
意	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があることに気づくことがある。	77.9%	71.6%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7 全国
小	文字式の累乗の計算をする	62.8%	78.3%
小	文章から方程式を立式する	14.1%	33.2%
領	数と式	54.6%	62.7%
意	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	77.9%	81.6%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

協調学習実施の単位に関しては、全国平均を上回ることができ、基礎的な内容の定着がうかがえる。一方、未実施の単位においては、基礎的な内容の定着を図る必要がある。また、意識調査から、既習事項の生かし方について、生徒が考えられるようにするための工夫が求められる。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1) ドリル形式による習熟を図る。
- (2) (1)を基にした、基礎的内容を活用した協調学習の推進を図る。
 - ① エキスパート活動に必ず入れる
 - ② ジグソーの際に、「全員ができる」ことに留意する。
 - ③ 既習事項を生かすことを生徒が意識できるような学習課題の設定を行う。